

変額保険 グローバルミックス

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

2008年度 (2008年4月～2009年3月) 特別勘定の現況

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社



アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ファンドマネジメント・チームが行います。)	アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・ローゼンバーグ 証券投信投資顧問株式会社
		アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	
債券 50%			

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の現況

(2008年4月～2009年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2008年4月～2009年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前期末比36.22%下落の773.66ポイント(前期末は1,212.96ポイント)で終了しました。

6月初旬にかけて、米株高や円安進行を背景に一時1,400ポイント台まで上昇しました。しかしその後は、資源価格高騰による企業収益圧迫懸念などから下落に転じました。9月に入ると米大手証券の経営破綻を受けて金融システム不安が再燃し、金融市場は大混乱となり急落しました。その後は、金融不安の実体経済への波及や円高進行が嫌気される一方、各国の経済対策への期待が交錯し、安値圏で変動の激しい展開となりました。3月には一時700ポイントを割込み、バブル崩壊後の安値を更新しました。

業種別(東証33業種)では、円高・原油安等によるコスト低下期待から「パルプ・紙」(前期末比 5.18%)の下落率が限定的だった一方、軟調な海運市況を背景に「海運業」(同 61.35%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、下落しました。NYダウは前期末比 37.95%下落の7,608.92ポイント(前期末は12,262.89ポイント)で終了しました。5月中旬にかけて堅調な推移で始まったものの、その後は米政府系住宅公社(GSE)の破綻懸念や米大手証券の経営破綻を契機に急落しました。11月以降、オバマ次期米大統領の経済対策への期待などから一時的に反発する局面もありましたが、米自動車会社の経営危機などから引き続き景気後退が懸念され、概ね軟調な展開となりました。

欧州株式市場は、下落しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比31.15%下落、仏CAC40は同 40.36%下落、独DAXは同 37.49%下落となりました。世界的な金融不安の深刻化などを背景に、概ね米国同様の動きとなりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、期初の金利上昇後は低下基調で推移し、当期末の新発10年国債利回りは1.340%となりました(前期末は1.275%)。

資源価格高騰による世界的なインフレ懸念を背景に金利は上昇基調で始まり、6月に一時1.9%近傍まで上昇しました。その後は、金融不安を背景とする世界的な景況感の悪化や金融緩和策の実施、4-6月期以降連続してマイナスとなった実質GDP成長率など軟調な国内経済指標を受けて、12月には1.1%台まで低下しました。期末にかけては、追加経済対策に伴う国債需給悪化懸念を嫌気した債券売りが台頭し、1.3%前後の狭い範囲で採み合いながら推移しました。

日銀は、前期末年0.5%であった政策金利を当期末までに年0.1%まで引き下げました。

無担保コール(翌日物)は前期末0.5%程度から当期末0.1%程度に水準を切り下げ推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、期後半に金利が大幅に低下しました。米10年国債利回りは期前半は4.0%前後で堅調に推移しましたが、その後米大手証券の経営破綻などをを受けて投資家のリスク回避傾向が高まる中、米FRB(連邦準備制度理事会)による利下げやインフレ圧力の低下を背景とした国債買いが優勢となり、当期末は2.663%となりました(前期末は3.410%)。

欧州債券市場は、期中頃に金利が大幅に低下しました。独10年国債利回りは7月に4.6%台まで上昇した後、世界的な金融市場の混乱に加え軟調な域内経済指標を受けて、低下の一途を辿り、当期末は2.994%となりました(前期末は3.899%)。

米FRBは、前期末年2.25%であったFF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を当期末までに年0.0～0.25%まで引き下げました。ECB(欧州中央銀行)は前期末年4.0%であった政策金利を7月に年4.25%としましたが、当期末までに年1.5%まで引き下げました。

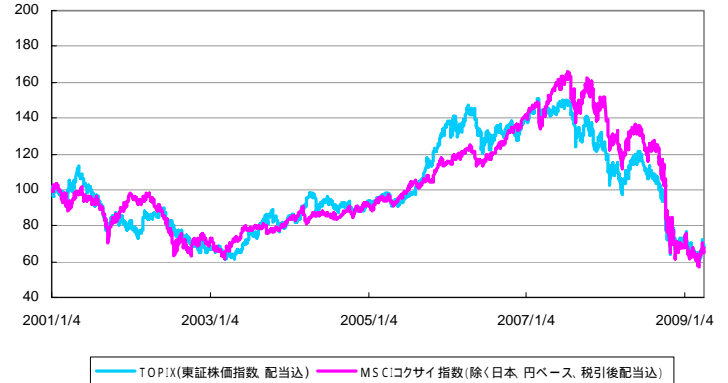
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、インフレ懸念を背景に米FRBによる過度な利下げ観測が後退し、8月には1ドル=110円台まで円安が進行しました。9月以降は金融不安が再燃し、12月には13年ぶりに87円台まで円高が進行しました。期末にかけては、国内の景況感悪化を背景とした円売りから米ドルが戻す展開となりました。円は対ドルで前期末比1円96銭(+1.96%)円高ドル安の1ドル=98円23銭(前期末は1ドル=100円19銭)となりました。

ユーロ/円相場は、インフレ懸念を背景にECBによる利上げ観測が台頭し、7月には1ユーロ=169円台まで円安が進行しました。8月以降は欧州での景気後退の深刻化懸念やECBの大幅な利下げによる金利差縮小を受けて、急激に円高が進行しました。円は対ユーロで前期末比28円35銭(+17.92%)円高ユーロ安の1ユーロ=129円84銭(前期末は1ユーロ=158円19銭)となりました。

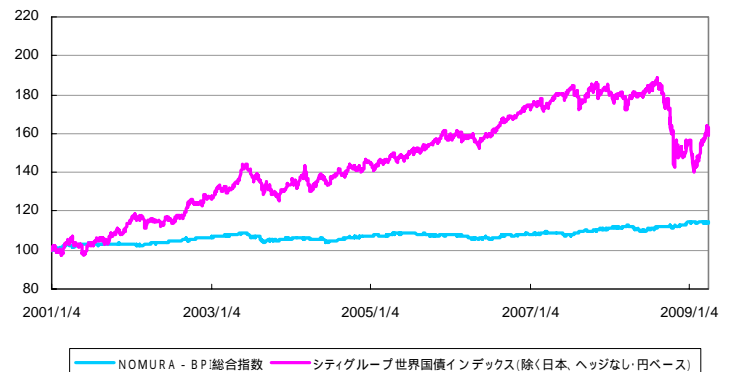
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

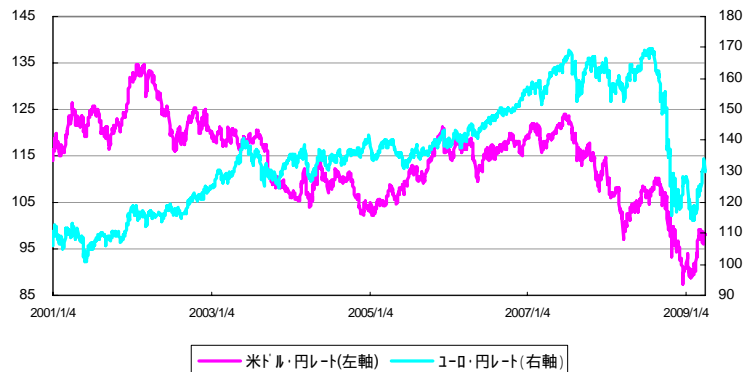


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

特別勘定の現況

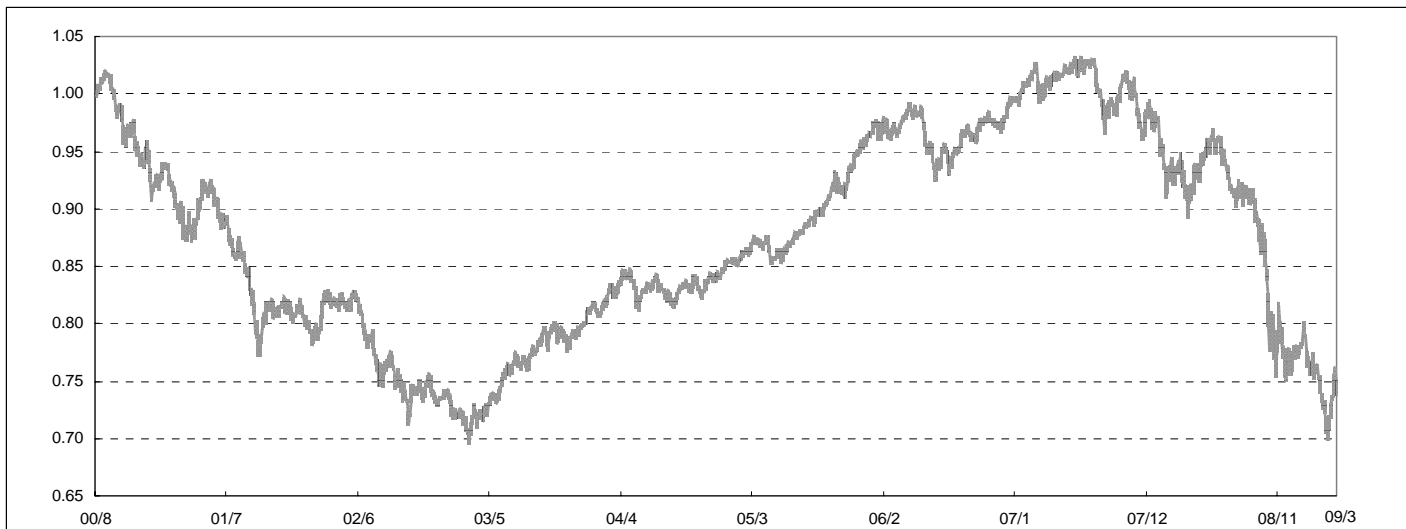
(2008年4月～2009年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2009年3月 末日現在]

特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2009年3月末	2008年12月末	2008年9月末	2008年6月末	2008年3月末	
INDEX	0.740	0.782	0.851	0.927	0.914	
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率(%)	1.14	5.47	13.12	19.08	24.75	26.04

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	572,529	2.0
その他有価証券	28,402,441	98.0
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	2,931,198	10.1
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	4,390,293	15.2
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	4,534,730	15.7
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	2,825,108	9.8
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	13,721,109	47.4
合計	28,974,971	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	440,173
有価証券売却益	-
有価証券評価益	2,155,388
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	4,904,465
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	47,327
収支差計	6,667,008

特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。金融システム不安による混乱を受けて、世界的に株価が大きく下落する一方、日本債券市場は概ね堅調に推移しました。資産配分比率の50%を占める株式が軟調に推移したことが大きくマイナスに影響しました。

資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

特別勘定の現況

(2008年4月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

(参考情報) アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 [2009年3月 末日現在]

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主として
 アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.00%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.52%
3	日電電話	情報・通信業	2.18%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.81%
5	本田技研工業	輸送用機器	1.75%
6	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	1.52%
7	武田薬品工業	医薬品	1.50%
8	キヤノン	電気機器	1.42%
9	任天堂	その他製品	1.34%
10	東京電力	電気・ガス業	1.33%
合計			20.37%
組入銘柄数			488銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	2.26%	10.17%	26.07%	33.09%	52.95%	37.43%
BM	2.24%	9.96%	28.85%	36.22%	55.23%	47.82%
差	0.02%	0.21%	2.79%	3.13%	2.28%	10.39%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。

ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

(参考情報) アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 [2009年3月 末日現在]

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主として
 アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	マザーファンド
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.32%
2	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.25%
3	武田薬品工業	医薬品	3.16%
4	日本電信電話	情報・通信業	3.09%
5	アステラス製薬	医薬品	2.60%
6	KDDI	情報・通信業	2.58%
7	国際石油開発帝石	鉱業	2.21%
8	第一三共	医薬品	1.94%
9	東海旅客鉄道	陸運業	1.88%
10	ジェイ・エフ・イー・ホールディングス	鉄鋼	1.83%
合計			25.86%
組入銘柄数			369銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	2.02%	12.15%	30.26%	38.18%	56.11%	25.85%
BM	2.24%	9.96%	28.85%	36.22%	55.23%	39.99%
差	0.22%	2.19%	1.41%	1.96%	0.88%	14.14%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。

ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～6ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、6ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険 特別勘定の現況

(2008年4月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

(参考情報) アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 [2009年3月 末日現在]

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリュー株)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として
 アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	4.15%
2 INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.13%
3 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.05%
4 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.00%
5 WAL-MART STORES INC	アメリカ	食品・生活必需品小売り	1.98%
6 AT&T INC	アメリカ	電気通信サービス	1.80%
7 PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	1.68%
8 CHEVRON CORP	アメリカ	エネルギー	1.62%
9 ABBOTT LABORATORIES	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.39%
10 PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	1.37%
合計			20.15%
組入銘柄数			335銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	4.85%	8.56%	25.88%	36.91%	39.08%	30.82%
BM	4.55%	9.56%	29.44%	41.28%	45.94%	41.41%
差	0.30%	1.00%	3.56%	4.37%	6.86%	10.59%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S & P 500 種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

(参考情報) アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 [2009年3月 末日現在]

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリュー株)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として
 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.92%
2 NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.64%
3 TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	2.59%
4 GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.49%
5 NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.34%
6 BP PLC	イギリス	エネルギー	2.30%
7 ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	2.29%
8 SANOFI-AVENTIS	フランス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.07%
9 TOTAL SA	フランス	エネルギー	1.93%
10 ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.81%
合計			23.38%
組入銘柄数			263銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.90%	13.21%	26.39%	40.50%	45.80%	36.65%
BM	1.91%	13.58%	29.54%	42.89%	49.94%	44.63%
差	0.01%	0.37%	3.15%	2.39%	4.14%	7.98%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI 欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～6ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、6ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

特別勘定の現況

(2008年4月～2009年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

(参考情報) アクサローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募 [2009年3月 末日現在]

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募
【委託会社】 アクサローゼンバーグ証券投資顧問株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として
アクサローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.20%	0.32%	1.31%	0.62%	5.98%	9.59%
BM	0.21%	0.18%	1.52%	0.83%	6.60%	12.48%
差	0.01%	0.14%	0.21%	0.21%	0.63%	2.89%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上以上7年未満)です。

マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザー・ファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第259回利付国債(10年)	日本	1.500%	2014年3月20日	Aa3	AA	7.43%
2	第257回利付国債(10年)	日本	1.300%	2013年12月20日	Aa3	AA	7.07%
3	第254回利付国債(10年)	日本	1.400%	2013年9月20日	Aa3	AA	6.59%
4	第252回利付国債(10年)	日本	1.000%	2013年6月20日	Aa3	AA	6.13%
5	第269回利付国債(10年)	日本	1.300%	2015年3月20日	Aa3	AA	5.82%
6	第70回利付国債(5年)	日本	0.800%	2013年3月20日	Aa3	AA	4.81%
7	第285回利付国債(10年)	日本	1.700%	2017年3月20日	Aa3	AA	3.76%
8	第248回利付国債(10年)	日本	0.700%	2013年3月20日	Aa3	AA	3.59%
9	第245回利付国債(10年)	日本	0.900%	2012年12月20日	Aa3	AA	3.45%
10	第66回利付国債(5年)	日本	1.100%	2012年9月20日	Aa3	AA	3.35%
合計							51.99%
組入銘柄数							61銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下東証)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証東京証券取引所に所有しています。東証東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとじて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて 市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払い戻し金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～6ページに記載されている*1～*4の用語説明は、6ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>